教学入門一④ 信行学の実践

※御書の空欄箇所は4編とも語群なしでも記入できるように学習して下さ 11

我もいたし(人)をも教化候へ、行学は(A)よりをこるべく候、(B)の二道をはげみ候べし、(B)たへなば(仏法)はあるべからず、あひかまへて・あひかまへて・(A)つよく候て三仏の守護をかうむらせ給うべ(―閻浮提)第一の(御本尊)を信じさせ給へ、 カあらば一文一句なりともかたらせ給うべし)第一の(御本尊)を信じさせ給へ、

末法に入て今日蓮が唱る所の題目は前代に異り

自行化他)に亘りて(С)なり

只深(

СА

)を発して日夜朝暮に又 懈 らず磨くべし何様にして)と唱えたてまつるを是をみがくとは云うなり

か磨く

き

(日蓮)と同じく法華経を弘むべしかかる者の弟子旦那とならん人人は宿縁ふかしと思うて

※本文中のA~C欄には同じ言葉が入ります。それは何ですか。※信行学に関する御書の一節です。カッコの空欄に語群から適切な言葉を選んで下さい

信心 В 行 学 C 南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経 一閻浮提 御本尊 日蓮 信心 釈尊 · 仏 法 日夜朝暮 人 自行化他

※次の信行学についての文章を、後の語群から言葉を選んで完成させなさい

で「信 します。 信受することでのみ仏法の法理を得ることができることを(は仏の教えを信じて受け入れることです。(仏)の境涯を問 の境涯を開くための唯一の道 以信得入 と表現

「行」の実践には、自行と

弘教)です。また広宣流布のための様々な実践活動もこれにあたります。化他)とは他人に功徳を受けさせるために仏法を教える実践であり、具体的には自行)とは自分が功徳を得るための実践であり、具体的は(勤行)です。行」の実践には、自行と(化他)の両面があります。

(信)・(行)・(学)のいずれが欠けても、正しい仏道修行にはなりません。に(御書)を拝読して正しい仏法の法理を学ぶことです。「学」とは教学と呼ばれる仏法哲理を学ぶことです。大聖人が遺された手紙や論文を集め

以信得入 信 自行 化他 勤行 弘教